

北摂里山は日本人のこころ
～ひと、さと、ずっと。～

北 摂 里 山 博 物 館 構 想

【概要版】

平成 23 年 9 月

兵庫県阪神北県民局

目 次

1	はじめに	1
2	北摂の里山	1
1)	北摂里山の魅力	1
2)	北摂里山の課題と対応	2
3	構想の基本的な考え方	2
1)	構想の目的	2
2)	対象地域	2
3)	3つの里山街道	3
4)	基本理念	3
5)	戦略コンセプト	3
6)	基本方針	4
4	構想の実現にあたって	4
1)	広報の戦略	4
2)	効果的な基盤整備	5
3)	ツーリズムの振興	5
4)	里山資源を活用した環境教育・環境学習の推進	5
5)	活動支援と自立的運営	5
5	北摂里山の新たな役割	5
6	構想の実現に向けた推進体制	6
1)	構想実現へ向けた連携	6
2)	推進体制のあり方	6
7	懇話会 名簿	7

北摂里山博物館構想

構想の目的

都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて活用されることを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげることを目的とします。

対象地域

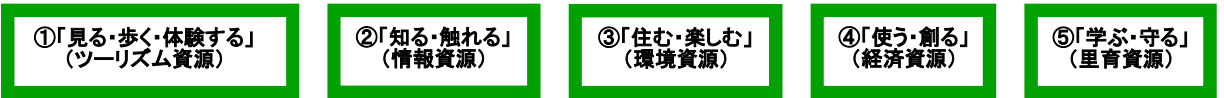
阪神北県民局管内にある30箇所の里山の一つひとつを展示物に見立て、“地域まるごと博物館”とします。管内のこれら里山は、構想対象地域の東西を流れる猪名川、武庫川に沿って点在しており、これらの里山を多くの人々に楽しみながら自由に巡っていただくため、猪名川町の大野山から伊丹市の伊丹緑地に至るルートを「猪名川里山街道」、三田市から伊丹市の昆陽池公園に至るルートを「武庫川里山街道」として位置づけます。また、たがいに固有の自然環境や歴史、文化を有する猪名川流域の「伝統的里山」と武庫川流域の「先進的里山」を結ぶ東西の回廊として、ふたつの中上流域を川西市の黒川から猪名川町、宝塚市を経て三田市の有馬富士公園まで東西に結ぶルートを「北摂里山街道」として構想の柱のひとつに位置づけます。



基本方針



北摂里山の新たな役割 (里山資源の新たな価値の創出とその利活用)



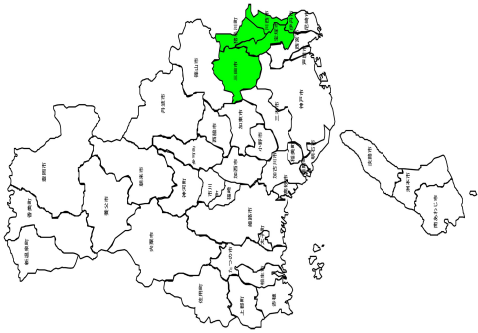
構想の実現にあたって

- 1) 広報の戦略
- 2) 効果的な基盤整備
- 3) ツーリズムの振興
- 4) 里山資源を活用した
環境教育・学習の推進
- 5) 活動支援と自律的運営

構想の実現に向けた推進体制



北摂里山博物館構想 里山分布地図

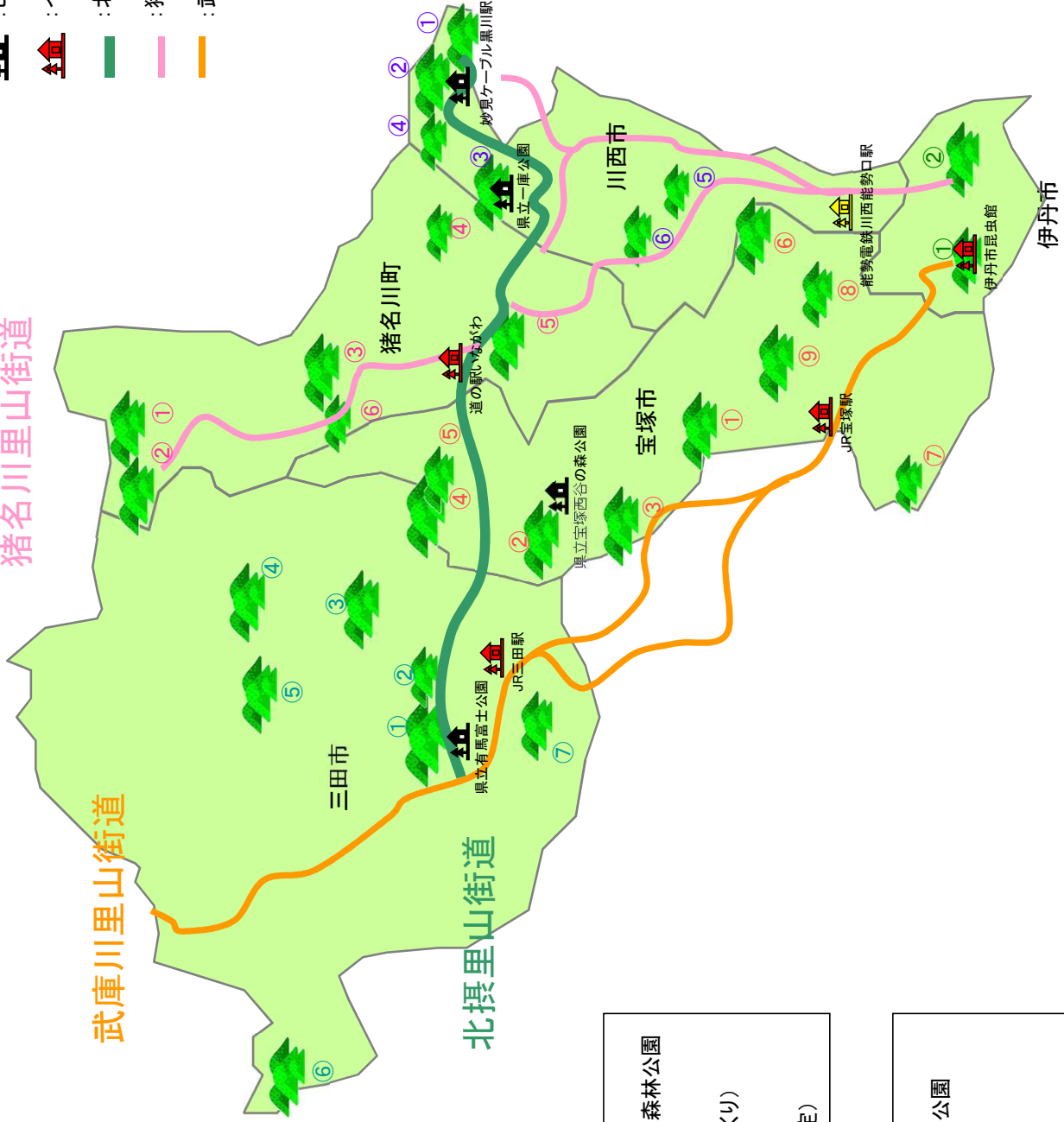


- : 里山
- : ビジターセンター
- : インフォメーションコーナー
- : 北摂里山街道
- : 猪名川里山街道
- : 武庫川里山街道

猪名川里山街道

武庫川里山街道

北摂里山街道



三田市

- ① 県立有馬富士公園
- ② 三田市立有馬富士森林公園
- ③ 高平ナナマツの森
- ④ 高平観福の森 (キリン水源の森づくり)
- ⑤ 乙原てんぐの森
- ⑥ 大谷地区 (整備予定)
- ⑦ 南公園 (整備予定)

宝塚市

- ① 櫻の園亦楽山荘
- ② 県立宝塚西谷の森公園
- ③ 丸山湿原
- ④ 宝塚自然の家
- ⑤ 松尾湿原
- ⑥ 北雲雀さすきの森
- ⑦ ゆずり葉の森
- ⑧ 山手台南公園
- ⑨ 北中山やすらぎの道

猪名川町

- ① 大野山
- ② 柏原の棚田
- ③ 朽原めぐみの森
- ④ 内馬場の森
- ⑤ 多田銀銅山
- ⑥ 高原ロッジ・メープル猪名川

川西市

- ① 妙見山
- ② 黒川
- ③ 県立一庫公園
- ④ 国崎クリーンセンター
- ⑤ 多太神社の森 (水明台)
- ⑥ エドヒガンの森 (水明台)

伊丹市

- ① 昆陽池公園
- ② 伊丹緑地

1 はじめに

北摂地域は、大阪や神戸などの大都市に近接しながら、豊かな自然景観や植生が随所に広がっています。

北摂里山博物館構想（以下「構想」という。）は、この北摂地域の里山（以下「北摂里山」という。）における保全及び再生活動を基本に、さらに、人と里山が互いに恵みを与えあう（共生する）豊かな地域へと発展することを願って策定するものです。

構想で示す里山の利活用や保全・整備の方針について、すでに里山に関与している方はもちろん、まだ関わっていない方も含めた多くの人々に、里山というものを理解していただき、自分のできる範囲で里山への関わり方を見つけ、里山を大いに楽しんでいただきたいと思います。それが、すなわち北摂里山の持続的な保全や北摂地域の元気、活性化につながっていくこととなります。

なお、構想の作成にあたっては、多様な有識者等からなる「北摂里山博物館構想推進懇話会」を設置し、貴重な意見・提案を頂いております。

※ この構想では、北摂と呼ぶ地域を歴史的に言われている地域に加え、猪名川や武庫川の豊かな自然環境を共有する隣接の伊丹市を含む区域として取り扱っております。

※※ この構想では、生物多様性に富み、多くの人々が訪れ、利活用できる北摂地域の里地・里山、ため池、湿地などを「里山」と表記しています。

2 北摂の里山

1) 北摂里山の魅力

① 多彩な里山資源

猪名川流域の里山は、伐採年の異なるパッチワーク状景観を持続し、菊炭の伝承や茶の湯文化との結びつきからも「日本一の里山」と称され、**伝統的里山**と呼ばれています。周辺には、「エドヒガン」や「台場クヌギ」が見られます。

一方、武庫川流域は、放置された里山を森林ボランティアなど地域の人々と協働で再生し、自由に散策できるフィールドとして整備するなど、里山と人との新しい関係が築きあげられ、**先進的里山**と呼ばれています。流域には丸山湿原、皿池湿原など貴重な湿原が残されています。

このように、北摂里山は、歴史・文化そして自然などの多彩な資源が潜在する魅力ある場所なのです。

② 生物多様性の宝庫

兵庫県全体をみてもクヌギ林の分布は少なく、当地域のクヌギ林は貴重なものです。また、台場クヌギに生息するオオクワガタをはじめ、クヌギの樹液に集まるカブトムシ、クワガタ類、オオムラサキ、クヌギの葉を食べるアカシジミ、ウラナミアカシジミといった小さなチョウ類などが生息しています。

北摂地域の里山林では、多様な動植物が生息・生育しています。

③ 都市に近接した里山

大阪や神戸から1時間圏内に豊かな里山景観が残されていることも北摂里山の特徴の一つと言えます。平成28年度に予定されている新名神高速道路開通で益々便利になり、全国からのアクセスも期待できます。こうした地理的な条件は、都市と里山との交流を活性化させる大きな利点だと考えられます。

④ 環境への意識や市民力の高さ

北摂里山では、高い市民力に支えられ、30以上の森林ボランティアや環境活動団体が間伐や下草刈りなどの里山整備、自然観察会、環境学習などの里山活動が行われています。

2) 北摂里山の課題と対応

かつて炭や薪など燃料生産の場であった里山は、1960年代から燃料の生産の場としては利用されなくなり、人と里山との関わりが薄れてきました。地域の過疎化や森林ボランティアの高齢化も進み、里山に関わる人材不足も深刻となっています。その結果、放置林となった里山が増加し、照葉樹林化、林床におけるネザサ等の優占化、マツ枯れ・ナラ枯れの発生、シカの食害などの問題も発生し、生物多様性の低下をもたらし、今後何らかの対策が必要です。

そこで、北摂地域の特徴でもある市民レベルでの種々の活動をより活性化させ、新しい時代の里山として利活用されるように、人と里山の新たな関係を創り上げていくことが、里山の再生・保全、ひいては地域の元気、活性化に寄与するものと考えられます。

3 構想の基本的な考え方

1) 構想の目的

都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）」として整備し、生産活動はもとより、環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて利活用されることを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげることを目的とします。

2) 対象地域

伊丹市内の昆陽池、宝塚市内の県立宝塚西谷の森公園や亦楽山荘、川西市内の黒川地域や県立一庫公園、三田市内の県立有馬富士公園や高平ナナマツの森、猪名川町内の朽原めぐみの森や大野山など阪神北県民局管内にある30箇所の里山の一つひとつを展示物に見立て、多くの人が気軽に訪れ、それぞれの目的に合わせて利活用できる“地域まるごと博物館”とします。

3) 3つの里山街道

管内のこれらの里山は、構想対象地域の東西を流れる猪名川、武庫川に沿って点在しており、これらの里山を多くの人々に楽しみながら自由に巡っていただくため、猪名川町の大野山から伊丹市の伊丹緑地に至るルートを「猪名川里山街道」、三田市から伊丹市の昆陽池公園に至るルートを「武庫川里山街道」として位置づけます。また、たがいに固有の自然環境や歴史、文化を有する猪名川流域の「伝統的里山」と武庫川流域の「先進的里山」を結ぶ東西の回廊として、ふたつの河川の中上流域を川西市の黒川から猪名川町、宝塚市を経て三田市の有馬富士公園まで東西に結ぶルートを「北摂里山街道」として構想の柱のひとつに位置づけます。

4) 基本理念

古より日本では多くの人々が里山とともに生活を営んできました。里山と人との関係は、こころの豊かさを育み、里山は日本人のこころの原点でもありました。

ところが、1960年代に始まる燃料革命によって、多くの里山はその役割を失うとともに、人々は経済的な豊かさを求め、里山から離れていきました。しかしながら、北摂里山は、今なお歴史・文化や生物多様性などの魅力を保つ稀少な空間として残されています。そこで、構想では「北摂里山は日本人のこころ」を基本理念とします。

<基本理念>

「北摂里山は日本人のこころ」

北摂里山を保全するだけでなく、現代社会における新たな役割を見出し、地域の特性である北摂地域の高い市民力を背景に、人と里山とが意識的に共生し、互いに恵みを与え合う関係を創出する里山の一つのモデルとして、日本をはじめ世界に発信していくことをめざします。

5) 戦略コンセプト

構想の基本理念を人々に分かりやすく発信し、幅広い人々から理解を得るために、キーワードとなる戦略コンセプトやそのシンボルマークを定めます。

<戦略コンセプト>

「ひと、さと、ずっと。」

人が里に恵みを、里が人に恵みを。
互いに恵みを与え合うことにより、
持続可能な社会の形成をめざします。

5) 基本方針

北摂里山が人と里山の新たな関係をつくり、互いに恵みを与えあう豊かな地域として発展する「北摂里山モデル」を創出するため、以下の基本方針に基づいて構想を実現していきます。

① ネットワークの構築と活性化

北摂里山街道を中心軸に、猪名川里山街道、武庫川里山街道にある各里山がネットワークを構築することにより、北摂里山全体の活性化を図ります。

② 共通のプラットフォームの構築

北摂里山で活動する森林ボランティアや環境活動団体、事業者、兵庫県立人と自然の博物館など研究機関、県・市町などの行政機関等の各主体が参画・協働できる共通のプラットフォームを構築します。

③ 北摂里山ブランドの創出と発信

北摂里山に潜在する多彩な里山資源に新たなブランドイメージ（人と自然のやさしさ、ぬくもり、安心感、こだわり、永続性等）を付加価値として加え、「北摂里山ブランド」として醸成・育成し、全国へ向けて発信します。

④ 広域連携の推進

歴史的、文化的、地勢的につながるの強い隣接する大阪府域の里山とも連携し、ツーリズムをはじめ構想の拡大化を図ります。

4 構想の実現にあたって

構想の実現にあたっては、阪神北県民局がひとつの核となり、北摂里山で関連活動を行っている諸団体や住民に広く呼びかけ、各種事業の実現を目指していきます。構想策定後、以下の項目を重視し、構想の実現に結び付けていきたいと考えています。

1) 広報の戦略

各種メディアへの広報戦略を設計し、北摂里山の多彩なトピックスをメディアに拾い上げられる取り組みを推進します。また、地域住民や大都市圏への有効な広報戦略も合わせて策定し、構想独自の Web サイトを立ち上げ、頻度の高い情報発信で、関係者を含む内外の人々との交流を活性化させます。

2) 効果的な基盤整備

地域外からの来訪者や散策者向けの案内や説明看板、ビジターセンター、トイレや休憩所の設置、安全対策のための転落防止柵等の設置・遊歩道のリニューアルなどの基盤整備を、主に行政の役割として担っていきます。

なお、里山本体の整備については所有者や設置・管理者が行うことを基本とします。

3) ツーリズムの振興

阪神北地域ツーリズム振興協議会をはじめ各種団体や旅行代理店等に呼びかけ、北摂里山をテーマにしたツーリズムプランをはじめ、大阪府との県域を超えた広域的なツーリズムプランを企画・実行していきます。全国へキャンペーンなどで広報し、多くのツーリストに来ていただける魅力的なツーリズムの振興をめざします。

4) 里山資源を活用した環境教育・学習の推進

北摂里山を次世代へつなぐ環境学習は、本構想における重要な位置づけにあります。構想では、子どもから大人までの各世代に対応した環境学習の場を提供し、様々なプログラムも用意します。拠点施設のみならず都市部への出前講座や教育機関における環境学習支援も視野に入れた実施をめざします。

5) 活動支援と自律的運営

北摂里山を継続的に維持管理していくためには、地域の人々や森林ボランティアなどへの技術指導や助成などの各種活動支援が欠かせません。また、(仮称)北摂里山博物館推進機構についても、北摂里山の持つ資源や潜在能力(ポテンシャル)を活用したビジネスモデルを立ち上げ、自ら運営資金の調達を行い、将来的に自律した組織へ発展することをめざします。

5 北摂里山の新たな役割

里山資源の新たな価値の創出とその利活用

人々の生活は機能性を追求し、活動の中心は都市へと移ってしまいましたが、昨今の人々は心の癒しや精神的な豊かさ、さらには生きがいを求めて再び自然と接する生活が見直されつつあります。こうした変化から北摂里山をいかに現代人のライフスタイルと結びつけるか検討し、戦略コンセプト「ひと、さと、ずっと。」に則り、活動プランに反映させていきます。この活動プランのエネルギー源と言えるのが、北摂地域における豊かな**里山資源**です。これまでの評価や価値を見直し、新しい角度から里山資源の新たな価値を創出し、北摂里山の魅力を向上させたいと考えています。

具体的には、北摂里山の里山資源を「**ツーリズム資源**」「**情報資源**」「**環境資源**」「**経済資源**」「**里育資源**」の5つの分野から、新たな役割としてその利活用を図っていきます。

6 構想の実現に向けた推進体制

1) 構想実現へ向けた連携

構想の実現に向けて、関連する地域の各々との連携と協働により事業を推進します。



2) 推進体制のあり方

構想の継続的な推進のためには、一般の人々や事業者・NPOなどが自由に参画できる中核的な組織が必要です。既存の活動団体や学術機関等との連携にも注力して、「里山」をテーマに活動するさまざまな人々が本構想を通じてネットワークを広げ、豊かなコミュニケーション・情報交流ができる基盤を早期に創り上げます。

① 初動期 (2011～13 年度)

阪神北県民局が中心となって各種情報の整理と発信のほか、案内看板・ビジターセンターなど利用者の利便性や各里山間のネットワーク化につながるよう施設等の基盤整備、活動支援を実施します。

また、事業者やNPOが参画するためのスキームを策定し、県をはじめ大学などの研究機関や教育機関との連携を密にし「産・官・学」が融合した中核組織を構築します。

② 第二期 (2014 年度～)

中核組織が中心となって受託事業や自主事業、活動団体との調整などを実施し、県・市町等は中核組織を支援します。

北摂里山に関連する主体がそれぞれの役割を果たすことにより、北摂里山の継続的な維持保全とその利用を通じ、生き生きとした「ひと・さと・ずっと。」をベースとして地域社会を形成していきます。

7 北摂里山博物館構想推進懇話会 名簿

	職 名	氏 名
委員	人と自然の博物館 自然・環境再生研究部長	服部 保
〃	新さわやかな環境づくり阪神北地域行動計画推進会議 会長	足立 勲
〃	神戸新聞北摂総局総局長	中西 弘則
〃	能勢電鉄株式会社取締役社長	岸本 和也
〃	伊丹市 副市長	川村 貴清
〃	宝塚市 副市長	山下 稔
〃	川西市 副市長	水田 賢一
〃	三田市 副市長	吉岡 正剛
〃	猪名川町 副町長	宮脇 修
〃	兵庫県阪神北県民局長	森 哲男